

これは水じゃなくて、毎食ぼくの食事に入れられているのと同じものだ。以前、尻穴のナカにも同じものを入れられたことがあるからわかる。今度はおちんぽの穴でそれをやるつもりなんだ。

「いや…っ♡ああああ…っ♡♡」

そうわかったとたん、おちんぽ奥の泉がカッと熱を帯びた。たまらず腰をふりたてるぼくに構わず、職員さんはゆっくりと管を抜きながら言う。

「10秒我慢しろ」

言われていることの意味はわかった。この水を漏らすなどということだ。けど、

「んあ…っ♡あああああああ……ッッ！♡♡♡」

シャアアアアアア……ッ！♡♡

耐えられるわけない。

管が抜けきると同時にぼくのおちんぽからは怒涛のように液体が噴出した。その水圧が尿道内を擦り上げる感覚ほど気持ちいいものはなかった。

シャアアアアアア……ッ、シャアアアアアア……ッ！♡♡

しつこいくらい続く注入液のおもらしの奥に、別のものが控えている。それを出したくて、はやくこの液を出しきりたいと腰がのたうつ。